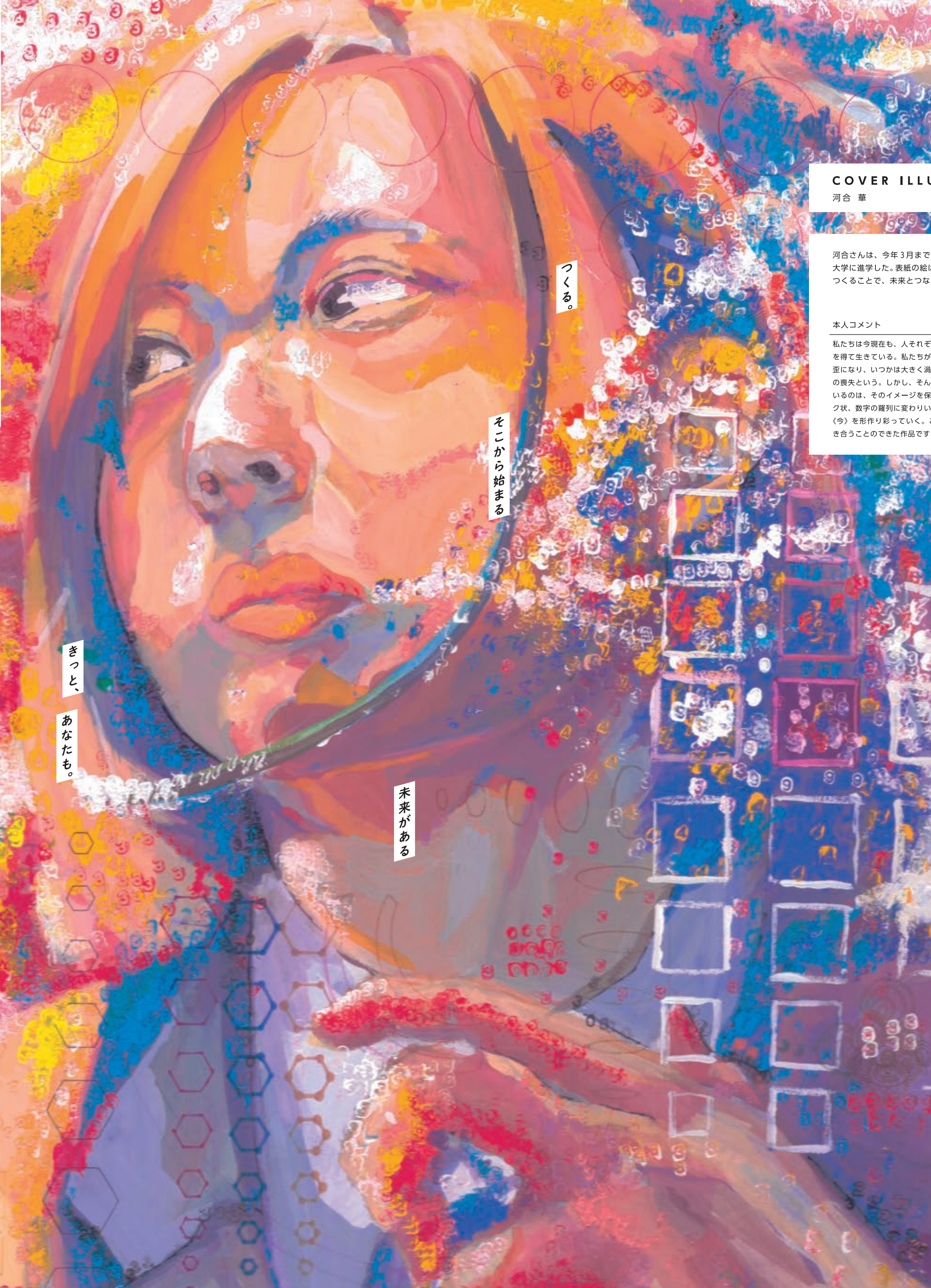




きっと、
あなたも。

未来がある

そこから始まる

つくる。

COVER ILLUSTRATION

河合 華

河合さんは、今年3月までいなべ総合学園高校の美術部に所属。この春から芸術大学に進学した。表紙の絵は彼女の自画像。視線の先には、自分だけの未来がある。つくることで、未来とつながれるということを河合さんは示してくれた。

本人コメント

私たちは今現在も、人それぞれの五感の個性によってリアルタイムの経験。〈イメージ〉を得て生きている。私たちが持つ〈過去のイメージ〉は時が経つにつれて自然と形状は歪になり、いつかは大きく渦を巻く黒い穴へと吸い込まれていってしまう。それは記憶の喪失という。しかし、そんな私たちが過去のイメージについて振り返ることが出来ているのは、そのイメージを保存・共有し合える様々な媒体があったから。過去はモザイク状、数字の羅列に変わりいつかは感じ取れなくなってしまう。それでも未来を見据え〈今〉を形作り彩っていく。これは私の自画像を通して〈未来のイメージ〉について向き合うことのできた作品です。

募集

- 1 inabe NOWTO では、共にこの媒体をつくってくださる方を募集しています。
どんな形で関わっていただけるかを伺いいただき、ご応募ください。
(例) カメラマン、ライター、イラストレーターとして関われる... など
- 2 inabe NOWTO で取り上げて欲しいこと。
- 3 「eat 紡ぎ」企画では、いなべで暮らす皆さまの、ご家庭に受け継がれている味・お料理などを教えてくださる方を募集しています。
(例) ご飯のお供 (おかず、お漬物、汁物)、甘味 (和菓子、洋菓子)、調味料 (お味噌、醤油)、お節の一品、生産者さんだからこそ知る美味しい野菜の食べ方... など

応募先

- ① メール info@inabe-gci.jp
- ② 郵送または持ち込み
〒511-0428 いなべ市北勢町岡下番31番地 いなべ市役所 2 階
グリーンクリエイティブいなべ事務局
※持ち込みの場合の受付時間：平日 9:00-17:00
【お問い合わせ！】
(一社)グリーンクリエイティブいなべ TEL：0594-72-7705

inabeNOWTO CREATORS



C R E D I T

企画協力 (掲載順)：湘田眞秀、荒木正比呂、川瀬知代、株式会社マルデ構築、株式会社エコムクリエーション、株式会社サンライト、児玉美香
アートディレクション/デザイン：北佐尚己 (エコムクリエーション) デザイン：(frame design)
写真：湘田眞秀 (P1-2)、荒木正比呂、P3-4)、山下佳苗 (frame design)
表紙イラスト：河合華
こども記者くらぶ イラスト：coto
eat 紡ぎ イラスト/テキスト：川瀬知代
テキスト：奥崎幹人 (P1-2、P3-4)、荒木愛美 (P5)
プロデュース/発行：奥崎幹人、荒木愛美 (グリーンクリエイティブいなべ)
印刷：共栄堂印刷
発行/企画制作：グリーンクリエイティブいなべ
inabe NOWTO 4 号
2022 年 3 月発行

ようこそ、
クリエイティブが生まれるまちへ

what's CREATOR

それを私たちは、親しみを込めて
「クリエイター」と呼ぶ

一般的な意味としては、創造的な仕事をしている人のことを言い、例えば、ミュージシャン、デザイナー、ダンサーなど、該当する職業は幅が広い。しかし、私たちが本紙で取り上げるクリエイターとは、職業という枠組みではなく、仕事や日常の業務、活動で自分の持っているクリエイティブな感覚を生かし、まちに刺激を与えている人たちを総称して言う。つまり、そこに、ワクワクがあるかどうか。決して希少、孤高なものではなく、皆さんのすぐ身近にいる人たちのことを差す。このクリエイターが共有するワクワクが、まちを面白くする原動力ではないだろうか。

三重県内の従業者数
彫刻家・画家・工芸美術家 / 約 420 人 デザイナー / 約 1,300 人 写真家・映像撮影者 / 約 700 人 音楽家 / 約 150 人
舞踊家、俳優、演出家、演芸家 約 310 人
出典：国勢調査（平成 27 年）

つくる、という衝動

クリエイティブな活動をする人がいる。……いなべには、たくさん。

私たちは、本紙の制作活動やイベントなどを通じて、これまで地元のクリエイティブな人たちと出会い、その度に大きな刺激を受けてきた。その中で、気付いたことがある。それは、想像を遙かに超える多くのクリエイティブな人がこのまちにいて、その人たちのつくるモノとその想いが集積となっていて、いなべの魅力を一歩飛躍的に高めていることだ。

一人ひとりのつくる、そこから生まれるものの可能性を実感してきたからこそ、私たちは今回、クリエイターについて掘り下げた。

まちを愛するパワーさえも秘めた、つくるという衝動。

それは、あなたのすぐ近く、まちのいたるところで見つけだすことができる。いや、きっと、あなたの中にもあるのだと思う。

皆、クリエイティブに生きている

いわゆるクリエイターという人……非日常感を醸し出すアーティストを連想しがちだ。まるで遠い存在であるかのように思い込み、あなたは無意識のうちにも自分の口癖を切り離してはいないだろうか。実際は誰もが、毎日クリエイティブに生きている。弁証を語るのも、子育てのこだわりも、トランプで遊ぶBGMも、全部、自分の感性が溢れ込んでいる。毎晩、湯船に浸かって響かせる音楽も、毎朝するおみそ汁の濃さも、あなただけの豊かな世界だ。だから誰にも、クリエイターの気質がある。

本紙でピックアップする地元のクリエイターたちの生き方や表現、そのたぐいには、まちづくりだけでなく、あなたの人生そのものを豊かにするサセンが散りばめられている。だから、多くの人に見てほしい、知ってほしい。私たちが言うクリエイターとは、決して特別な存在ではない。プロもアマチュアも、本業も副業も関係ない。地域の花道を手入したり、子どもの行事を企画したりしてワクワクを生み出しているならあなたはクリエイターだ。

いなべの地とクリエイティブ

いなべのまちで、いいモノをつくりたい。

価値観は違えど、その志はみんな、同じ。だから、こだわりの垣根を越え、クリエイターは色んな人たちと関わり、また他のクリエイターとも連携することで、相乗効果が生まれている。

特にこの数年、いなべ市には多くのクリエイティブな人たちが移住するようになった。また、このまちに生まれ、クリエイティブな能力を発揮している人もたくさんいる。人が人を呼び、化学反応が起り、また今日もこのまちで、まちにワクワクを生み出しているのだ。

いなべの地だからこそ、人をよりクリエイティブにさせるものがあるように思う。

いなべの何かが刺激を与えているのか、私たちはクリエイターたちと直接聞いてみることにした。

フォトグラファー

浦田 貴秀

2014 年からビデオグラファーとして活動始める。傍で写真も取り続け今では写真家に転身。第 7 回 SONY スペシャルフォトコンテスト銀賞受賞。自分らしい写真・動画をコンセプトにさまざまなジャンルを撮影。

ミュージシャン

荒木 正比呂

UAの最新シングル「微熱」の編曲や、「竜とそばかすの姫」で主人公の声優を務めた中村佳穂の最新アルバム「INIA」を共同プロデュースするなど注目されるアーティスト。

イラストレーター アーティスト

川瀬 知代

アパレルブランドのテキスタイルや、日本橋三越ショーウィンドウ壁紙のペイントをはじめ、「いなべ暮らしを旅する 2022」表紙、「いなべ暮らしの市」や「inabeNOWTO」ロゴのイラスト制作なども手掛ける。

ペインター
太田 麻帆

MAO OTA
株式会社サンライト 代表取締役 CEO



Painter

デザイナー
和田木 綿子

YUKO WADA
株式会社エコムクリエーション デザイナー



Designer

ファウンダー
出口 大介

DAISUKE DEGUCHI
株式会社マルデ鋳器 専務取締役



Founder

重厚な鋳物に、軽やかな発想を。
未来をかたどるメタリックの異端児

建物の中に入ると、ジブリの世界に出てきそうな、巨大でレトロな機械が並ぶ。薄暗い工場で、屈強な体つきをした、その人は黙々と作業を続けていた。

ここは、いなべ市員弁町西方にあるマルデ鋳器。主にガスコンロやガスバーナーを製造する。自社で鉄を溶かして製造から製品化まで一貫して行う日本唯一の工場だ。

砂に圧力をかけて型を造り、铸型に鉄を溶かして流し込む。冷えて固まったら砂を取り除き、研磨や検査などをして仕上げていく。

出口大介さんは、この会社の専務取締役だ。この地で生まれ育ち、中学生だった頃には、工場を経営する父の跡を継ごうと決めていたという。

重厚なものを扱う仕事ではあるが、出口さんならではの軽やかで

柔軟な発想が、今、新しい価値を生み出している。

その代表的なものがデザイン性を取り入れた、いなべモノリスという鋳物のブランドだ。美しい柄の蚊遣り器や、ペンホルダー、パーウエイトなど、遊び心のある商品が人気となっている。

さらに、ワークショップを開催したり、積極的に工場見学を受け入れたりと、その活動の幅は広い。その原動力となっているのは、生まれ育ったこのまちに何か貢献したいという想いだ。

今後は、子ども向けの職業体験スペースをつくったり、市内の工場を巡るスタンブラリーを企画したりしたいそうだ。

出口さんがその手と発想でかたどっていたのは、まちの工業の未来という大きなものだった。

ここだから、生まれるモノがある。
自然の息吹を創意と融合させる描き手

その人は時折、藤原岳に微笑みかけながら、WEBのデザインをしていた。山容をあおぎ、黙考し、森林を吹き抜ける澄んだ風のようにしなやかな心でつくり上げていく。鈴鹿山脈のふもとに広がる自然豊かないなべ市ならではの風景美や土の匂い、清流のせせらぎといった環境が、創作する心を透き通らせ、いいものを生み出すのだと言う。

いなべ市藤原町に移住したのは、3年前。夫の転勤がきっかけで北勢エリアで引っ越し先を探していた際、名古屋に近い都市ではなく、緑豊かないなべを選んだ。

和田さんは千葉県出身。大学時代は建築デザインを学び、社会に出てからはずっと、WEBやグラフィック、ロゴなどのデザイナー

として活躍している。現在は、デザインや広告、WEB制作などを行う会社に所属し、地元の企業や団体、商店といったクライアントのニーズに向き合っており、WEBから冊子、商品のデザインに至るまで広く制作する多忙な日々を送っている。

自分はこれからもデザインの仕事しかやらないし、クリエイター以外の仕事はできない、と和田さんは言う。それは宿命という重い言葉よりも、デザインをしている自分が自然でつくりくるから、というしなやかな思考のように感じ取った。

「私は出会う人の運がいい」と和田さんは、また笑った。運がいいと言える人に、きっと創作の女神は微笑み続けるのだろう。

「何か、違う」
いつも自分に問い続ける、色彩の求道者

ムラの出ないように、一心不乱で黄色く塗っていた。塗装とは、その人の職業というよりも、人生の表現手段に近い。

太田さんは幼い頃から、いなべ市で育ち、塗装や防水、補修などの工事のキャリアは、20年を超える。市内外の仕事を受注する会社の若き社長でもあり、建物の个性的な塗装や空間づくりでまちに活力をもたらすクリエイターでもある。

太田さんが建築や運営に関わっているものは、どれも、いなべ市で見たことがないトーンの色彩ばかり。その代表的なものが、いなべ市大安町石樽下にあるOIOSO LIGHT BURGESSだ。洋画のワンシーンから飛び出してきたような外装や空間が、人を惹きつける。

取材に訪れた日は、員弁町上笠

その目、その声に、一切の曇りも偽りもない。
つくっても、つくっても、何か違うと感じたら、また塗装からやり直す。それは、筆の置きどころを探す求道の絵描きのように、いなべの新時代をペイントしているような存在の大きさを感じさせてくれた。

